

平成 25 年度
横須賀美術館 事業計画書
(案)

平成 25 年 (2013 年) 3 月

横須賀美術館の使命

- I 美術を通じた交流を促進する
- II 美術に対する理解と親しみを深める
- III 訪れるすべての人に安らぎの場を提供する

横須賀美術館の目標

- I 美術を通じた交流を促進する
 - ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。
 - ② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。
- II 美術に対する理解と親しみを深める
 - ③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。
 - ④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。
 - ⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。
- III 訪れるすべての人に安らぎの場を提供する
 - ⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。
 - ⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。
 - ⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って、効率的に運営・管理する。

平成 25 年度 横須賀美術館事業計画について

平成 25 年度の横須賀美術館事業計画は、美術館を市の都市資源として活用するために、集客を意識して策定しました。

集客に多大な影響を与える展覧会では、美術として取り扱うべき領域は広いことを認識し幅広いニーズに応えるため、美術にあまり興味のない方にも喜ばれるような「妖怪」をテーマとした展覧会や幅広い世代に喜ばれる参加・体験型の展覧会を企画しました。

また、平成 24 年度に試行として実施した民間事業者のノウハウを活用した特別企画展は、平成 25 年度も引き続き実施する予定です。

企画展以外の事業においても、集客促進を意識して事業を計画・実施します。

I 美術を通じた交流を促進する

①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

【事業計画】

1 集客を意識した展覧会の実施

展覧会及び観覧者数（予算時見込み）

展覧会名	会期	観覧者数	備考
日本の木のイス展	4/1-4/14	3,500人	H25年度分
街の記憶展	4/27-6/30	13,000人	
日本の「妖怪」を追え！	7/13-9/1	20,000人	
たいけん、ぼうけん、びじゅつかん！	9/14-11/4	20,000人	
山崎省三と村山槐多（仮題）	11/16-12/23	12,000人	
第66回児童生徒造形作品展	1/11-1/27	15,000人	
経済部特別企画展	2/8-3/30	20,000人	
所蔵品展だけの期間	上記以外	4,500人	
計		108,000人	

2 広報・集客促進事業

展覧会やイベント、美術館のロケーションなどを広く周知し、親しみやすい美術館のイメージを高め、交流拠点としての集客を図る。

(1) 展覧会やイベント等の広報宣伝による集客促進

- ・京浜急行電鉄等への広告掲出
- ・ホームページ、ツイッターを活用した情報発信
- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信

(2) イベント開催を通じた知名度・イメージの向上による集客促進

- ・コンサートの開催
- ・美術館ウェディングの開催

(3) 来館者サービスによる集客促進

- ・年間パスポート、前売券の販売
- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施

(4) 他部局、事業者との連携による集客促進

- ・カレーフェスティバル等市内外イベントへの参加

(5) 団体誘致

- ・旅行会社への団体ツアーの提案

(6) 商業撮影の受入と誘致

- ・ドラマや映画、カタログや雑誌等のロケーション撮影の受入と誘致

【達成目標】 年間観覧者数 115,000 人

[目標設定の理由]

- ・「横須賀市立美術館基本計画」（平成 12 年 6 月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などを勘案し、年間観覧者数を 10 万人としています。
- ・今年度は、集客に力を入れるという市の方針を受け、集客を意識した自主企画、経済部商業観光課による企画展の実施により、108,000 人を見込んでいます。
- ・さらに、団体の誘致、積極的な広報の実施などによる効果を上積みとして、目標を 115,000 人とします。

年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度 ※
観覧者数	165,961 人	106,520 人	98,738 人	100,033 人	108,985 人	108,944 人
来館者数	386,175 人	246,337 人	224,729 人	231,826 人	224,109 人	207,254 人

(ア) 観覧者数

発券数を根拠とした計算値。一日に複数の展覧会を見た場合も累計しない(企画展、所蔵品展、谷内六郎館を見た場合、1 人と数える)。無料観覧者数を含む。展覧会を見なかった人(例:図書室のみ利用)は含まない。

(イ) 来館者数

本館の 2 か所の出入りに設置しているオートカウンターによる計測値。入っていくのみを数え、出ていく人は数えない。谷内六郎館に入る人を加算していない(いったん本館で受付をするため)。レストランのみの利用者も加算していない

※ 平成 24 年度の観覧者数、来館者数は、平成 25 年 1 月末時点。特別企画展「L'Anniversary EXHIBITION」を含む。(参考:特別企画展の数字を除いた観覧者数は、85,718 人)

【実施目標】 広報、パブリシティ活動を通じて、市内外の広い層に美術館の魅力をアピールする。

[目標設定の理由]

- ・横須賀美術館の魅力は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市のシティセールスや交流都市の推進という観点からも重要になります。
- ・市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定しました。

(無料での情報掲載数)

- ・過去3年(平成22年度～24年度)の情報掲載数が平均200件(見込)であることから、マスコミへの積極的な訴求活動を行い、10%増の220件を目標とします。

媒体	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度 (H25 1月末)
新聞	10件	40件	46件	42件
美術系雑誌	43件	38件	37件	24件
タウン紙	34件	20件	28件	26件
フリーペーパー		18件	6件	4件
情報誌(地域版)		5件	4件	6件
情報誌(全国版)	21件	18件	19件	15件
WEB	24件	15件	30件	39件
ファッション誌	4件	11件	6件	11件
機関紙(会員誌)	25件	13件	12件	10件
その他		8件	12件	4件
合計	161件	186件	200件	181件

(美術館公式ツイッターのフォロワー数)

- ・新たな情報発信のツールとして、平成24年10月から美術館公式ツイッターの運用を開始しました。約5か月でフォロワー数が500人を上回りました。平均で100人/月が増加していることを踏まえ、フォロワー数2,000人を目標とします。

(商業撮影の受け入れ件数)

- ・イメージアップと認知度向上を目的として、商業撮影を受け入れています。撮影時間等の要望に柔軟な対応をすることで、件数が増加しています。引き続き、積極的に受け入れ、30件を目標とします。

年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度 (H25 1月末)
撮影件数	14件	10件	21件	22件
使用料	143,000円	96,000円	494,000円	677,500円

②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

【事業計画】

1 美術館ボランティア活動の推進

ボランティアが美術館の活動を支援することで、自らのやりがいを見出し、市民の美術への親しみを増す一助となるとともに、市民の交流の場となることを目指し、ボランティア活動の推進を図ります。あわせて、ボランティア自身の美術への理解を深めるための育成を行います。

美術館ボランティアは、美術館活動を支援する「サポートボランティア」と、美術館を盛り上げるためのイベントを自ら企画実施する「プロジェクトボランティア」の2チームの活動を継続しています。

2 サポートボランティアによる活動

110 日程度

- ・所蔵品展ギャラリートークの開催（毎週日曜日）
- ・ワークショップ事業の補助
- ・小学校美術館鑑賞会の受け入れ補助
- ・研修会、会議の開催

3 プロジェクトボランティアによるイベントの企画・実施

30 日程度

- ・ゴールデンウィーク、夏休み、クリスマス等の時期に、美術を通じた誰でも参加できるイベントを3回程度実施します。

4 ボランティア活動のPR及び参加者の募集

- ・美術館ホームページを活用したボランティア活動のPR
- ・第3期サポートボランティアの育成
- ・プロジェクトボランティアの継続募集

【達成目標】 市民ボランティア協働事業への参加者数のべ1,800人
(事業ごとに加算、登録者・一般参加者を総合して)

[目標設定の理由]

- ・参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標の1つとなります。
- ・プロジェクトボランティア、サポートボランティアとも、主な担い手となる人数がわずかながら増加し、安定した活動をしています。
- ・プロジェクトボランティアの活動では、イベントの一般参加者数が飽和に達し、これ以上は増加しないと考えられます。
- ・サポートボランティアの活動では、ギャラリートークへの参加者平均が微増しています。
- ・以上を勘案し、25年度の目標は、**1,800人**とします。

(市民ボランティア協働事業へののべ参加者数)

	プロジェクトボランティア		サポートボランティア		計
	登録者	一般参加者	登録者	一般参加者	
21年度	115	466	443	254	1,278
22年度	91	580	375	174	1,220
23年度	197	533	434	274	1,438
24年度 (H25 1月末)	200	1,116	306	275	1,897

*プロジェクトボランティア

- ・美術館のイメージアップと美術館の利用を高めるため、自らイベントを企画実施するボランティア。
- ・主な活動は、市民等が参加し楽しめるボランティアイベントの開催。
- ・登録者数 19 名(平成 25 年1月末現在)

*サポートボランティア

- ・美術館が主催する活動に共感し、自身の知的欲求を充足しつつ美術館活動をサポートするボランティア。
- ・主な活動は、ギャラリートークの実施。ワークショップや鑑賞会の補助。
- ・登録者数 28 名(平成 25 年 1 月末現在)

【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
 - ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。
-

[目標設定の理由]

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館の担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

【事業計画】

1 展覧会事業

国内外の優れた美術品を展示し、感動と思索を得る場を提供します。

(1) 企画展・・・特定のテーマによる展示とします。例年 6 回開催していましたが、平成 25 年度は経済部による展覧会が 1 回含まれるため、自主事業としては、5 回開催予定。

i 街の記憶—写真と現代美術でたどるヨコスカ

4 月 27 日（土）～6 月 30 日（日）

- ・東松照明、森山大道、石内都、ホンマタカシら 15 作家による、戦後の「ヨコスカ」を題材とした写真、現代美術に資料を加え、約 200 点で構成します。質の高い写真を展示すると同時に、本格的に写真を紹介する初の展覧会。

ii 日本の「妖怪」を追え！

7 月 13 日（土）～ 9 月 1 日（日）

- ・浮世絵から、近代の日本画や油彩画、そして現代美術まで、さまざまなかたちで表現された「妖怪」を通して、日本人の世界観の変遷をたどります。

iii 親子で楽しむ現代アート たいけん、ぼうけん、びじゅつかん！

9 月 14 日（土）～11 月 4 日（月・祝）

- ・plaplax、日比野克彦、KOSUGE1-16、松井紫朗による参加、体験型の作品を集め、質の高い現代美術に親しみをもちながら、親子で楽しめる展覧会です。

iv 山崎省三と村山槐多（仮題）

11 月 16 日（土）～12 月 23 日（日）

- ・横須賀に生まれた山崎省三は、同い年の村山槐多との友情を育み、遺作の紹介に尽力しました。農民美術運動や自由画教育に携わりながら、独自の表現を追究した、画家の生涯とその時代を振り返ります。

v 児童生徒造形作品展

1 月 11 日（土）～1 月 27 日（月）

- ・市立の幼、小、中、高、ろう、養護、すべての学校園の子どもたちが日ごろの授業でつくり上げた平面作品・立体作品など約 3,000 点を展示します。

- (2) 所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展・・・年4回開催を予定
- | | |
|-------------|----------------------|
| i 第1期所蔵品展 | 4月20日(土)～6月23日(日) |
| ii 第2期所蔵品展 | 6月29日(土)～10月20日(日) |
| iii 第3期所蔵品展 | 10月26日(土)～26年2月2日(日) |
| iv 第4期所蔵品展 | 2月8日(土)～4月13日(日) |

2 教育普及事業

知的好奇心の育成と充足のために実施。

- (1) 展覧会関連の外部講師による講演会の開催 7回
 展覧会を深く理解できるよう、外部講師による講演会を開催
 ・開催：土日 定員：各70名程度(先着制)
- (2) ワークショップの開催 7回
 美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるよう、多様なテーマによるワークショップ事業を開催します。
 ・展覧会に関連したワークショップ 3回
 ・大人向けワークショップ 3回
 ・開催：土日 定員：各20名程度(事前申込制)
- (3) 映画上映会の開催 2回
 優れた映像美術に触れ、多様な表現に親しむことのできる映画会(シネマパーティー)を開催します。
 ・開催：年2回 定員：25名×2回(事前申込制)
- (4) 学芸員による企画展ギャラリートーク 15回
 展覧会の趣旨や見どころ、主要作品の解説など展覧会を深く理解していただくことを目的として開催。
 ・企画展毎に1、2回程度 開催：土日(当日自由参加)
- (5) 学芸員による展覧会観覧の案内・解説 随時
 学生・グループなど、観覧にあわせ展覧会をより楽しく観覧できるよう要望に応じて、展覧会の案内・解説を行います。

3 美術図書室運営事業

美術図書等約2万5千冊を揃えた図書室を運営し、利用者サービスをはじめ、美術への興味や理解が深まる場を提供します。

- (1) 所蔵図書の充実
 ・一般的な美術書に加え、企画展に関連する書籍や子供向けの絵本、貴重な美術雑誌(古書)などを購入し、蔵書の充実を図ります。
 ・古書の補修および修復をし、保存に適した状態にします。
- (2) 美術に関する情報提供
 ・来館者が利用できる端末機を設置し、図書室の蔵書を検索できるようデータベースを随時更新します。
 ・企画展の開催に併せた関連図書の紹介を行います。

【達成目標】 企画展の満足度（補正值）81%以上

[目標設定の理由]

- ・ 展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・ 平成 25 年度は、経済部による展覧会が 1 回含まれるため、それを除く 5 回の企画展の満足度を対象とします。
- ・ 満足度は来館者へのアンケートによって算出しています。同じ方法の調査を継続的に行っており、目標はこれまでの最高である平成 23 年度の 80.6%を超える 81%としました。

年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
企画展満足度	70.5%	76.0%	73.2%	78.7%	80.6%

【実施目標】

- ・ 幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間 5 回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
- ・ 所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間 4 回開催する。
- ・ 知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
- ・ 所蔵図書資料を充実させる。
- ・ 多くの人が気軽に利用できるよう、図書室の環境を整える。
- ・ 主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

[目標設定の理由]

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1 カ月半から 2 カ月程度を目安とした年間 5 回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展および谷内六郎展をそれぞれ年間 4 回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

【事業計画】

学校との連携

- 1 「アーティストと出会う会」(中学生、高校生) 2回
活躍する現役アーティストを招聘し、こども時代の夢や取り組みなどを紹介することで、中学生が将来への夢や希望を美術の側面から支援する講演会を開催します。
- 2 中学生のための美術鑑賞教室の開催 14回
中学生向けに鑑賞ガイドを用意し、学校外での美術を学ぶ場となる美術鑑賞教室を開催します。
- 3 「美術鑑賞会」の受け入れ(市内全小学校6年生) 46回
市立の全小学校6年生を対象に、ワークシートを用いて美術館における美術鑑賞教育となる鑑賞会を開催します。
- 4 出前授業の実施 随時
学校教育と連携し、美術館職員が学校に出向き、授業の中で美術館を活用した美術教育を実践する出前授業を実施します。
- 5 職業体験の受け入れ 随時
子どもたちが美術館での仕事を体験する職業体験の受け入れを行う。
- 6 学芸員実習の受け入れ 随時

子どもたちへの美術館教育

- 1 ワークショップの開催 9回
子どもたちが美術に親しめるようなワークショップ事業を開催します。
 - ・展覧会関連ワークショップ、子ども向けワークショップ
開催：5月、10月、定員：40～60名程度(事前申込制)
 - ・未就学児ワークショップ
開催：3月 定員：40名程度(事前申込制)
- 2 映画上映会の開催 2回
気軽に映画を楽しめるよう屋外での映画会を開催します。
開催：夏 定員：なし(当日自由参加)
- 3 親子ギャラリーツアーの開催 4、5回
親子での美術鑑賞の楽しみ方を知ってもらうための学芸員によるギャラリーツアーを開催します。

【達成目標】 中学生以下の年間観覧者数 18,500 人

[目標設定の理由]

- ・子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするためのさまざまな取り組みをしていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずです。

今年度の目標は、過去3年(平成21年度～平成23年度)の観覧者数の平均が18,046人を超える18,500人としました。

(中学生以下の観覧者数)

	幼児	小学生	中学生	計
19年度	3,090	11,038	3,048	17,176
20年度	1,586	9,560	2,348	13,494
21年度	1,706	10,981	2,252	14,939
22年度	3,074	10,418	2,941	16,433
23年度	4,041	14,442	4,285	22,768

【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
 - ・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
 - ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
 - ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。
-

[目標設定の理由]

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、多くの学校教育現場では鑑賞の機会に乏しく、表現としての造形教育に偏りがちでした。

近年の学習指導要領では、小・中学校における鑑賞教育がより重視されるようになってきています。平成23年度から実施された小学校の新学習指導要領では、鑑賞教育のために地域の美術館を利用することに加え、学校と美術館との連携を図ることが明示されています。

学校教育ではできない、美術館にしかできないことは何かをじゅうぶん意識しながら、鑑賞教室やワークショップ、作家との連携等充実したプログラムを企画、提供することによって、子どもたちが美術に親しみをもつ機会の拡充につとめていきたいと考えています。

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

【事業計画】

新たな美術品の収集（寄贈、寄託の受け入れ）を行うとともに、所蔵する美術品約4,500点の管理を行います。

- 1 所蔵作品の管理（作品の貸出及び修復・額装）
- 2 美術品の収集（購入予算は無、寄贈、寄託の受け入れ）
美術品の収集方針・・・近現代の絵画、版画、彫刻とし、次の基準によります。
 - (1) 横須賀・三浦半島にゆかりのある作家の作品
 - (2) 横須賀・三浦半島を題材とした作品
 - (3) 「海」を描いた作品
 - (4) 日本の近現代を概観できる作品
 - (5) その他、上記に関連ある国内外の優れた作品
- 3 環境調査の実施（年2回）
- 4 美術品選定評価委員会の開催

【達成目標】（なし）

〔目標設定の理由〕

購入費（基金）が充当されていないため、収集は寄贈に頼っている状況です。

寄贈される作品の質については、専門家による外部委員会である「美術品選定評価委員会」によってすでに保証されていますが、作品の収集は数量によって評価されるべきではありません。

作品の修復、額装等の処置についても、個々の事例に即して対処しているため、やはり数量的な評価に適していません。

作品の貸出は、依頼に応じて行う性格のものであり、また、作品保護の観点からも数量的な評価をすべきではないと考えます。

したがって、この項目では達成目標を設定しません。

【実施目標】

- ・ 収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
 - ・ 適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
 - ・ 計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
 - ・ 所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。
-

[目標設定の理由]

・ すぐれた美術作品をひろく収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、保管のための適切な環境整備と、作品そのものの修復および保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえで、可能な範囲で行っています。

Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

【事業計画】

- ・受託事業者との定期的なミーティングの実施（運営事業者連絡会議）
- ・防災避難訓練を含む館内スタッフの研修の実施
- ・展示監視日報による課題の把握と情報の共有
- ・館内巡回による清掃及びスタッフ対応等の確認

【達成目標】

- ・館内アメニティ満足度 91%以上
- ・スタッフ対応の満足度 80%以上

[目標設定の理由]

- ・館内アメニティ満足度については、来館者が気持ちのよい時間を過ごしていることを示す指標であると考えます。21年度から、アンケートのなかに質問事項を加え、「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごすことができた」に対する満足度を指標（総合満足度）としました。
- ・館内スタッフとの連携を密にし、課題の把握と対策を図り、これまでの最高を超える91%を目標としました。
- ・スタッフ対応の満足度については、来館者アンケート「スタッフの対応・案内は適切だった」に対する満足度です。
- ・館内スタッフとの定期的な情報交換及び研修を行うことで、これまでの最高を超える80%を目標としました。
- ・スタッフ対応に関する来館者アンケートについては、他館のアンケート事例を調査・研究していきます。

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
館内アメニティ満足度	未調査	未調査	88.7%	88.5%	90.4%
スタッフ対応の満足度	78.9%	69.6%	79.0%	78.0%	78.5%

【実施目標】

- ・ 建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。
 - ・ 受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
 - ・ 受託事業者と協力して、付帯施設（レストランおよびミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。
-

〔目標設定の理由〕

- ・ 横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の1つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害によって老朽化の速度が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続してゆくことが重要です。
- ・ また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されます。受付・展示監視スタッフは受託事業者ですが、市職員との緊密な連携を図り、一体となって、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。
- ・ 美術館を訪れた際、買い物や食事をする 것도、来館者の大きな楽しみです。民間事業者であるレストランおよびミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねてゆきます。

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

【事業計画】

- 1 福祉活動講演会の開催 1回
さわれる彫刻や絵画など、誰もが美術に親しめるさまざまな研究や事例を紹介していく講演会を開催します。
- 2 障害者向けワークショップ 1回
障害のある人を対象に、美術を楽しめるワークショップを開催します。
- 3 障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」 12回
障害のある子どもたちを対象に、身近にある材料で創作を体験するワークショップを開催します。
- 4 パフォーマンスの実施 1回
誰もが様々な美術表現に親しめるよう、アーティストによるパフォーマンスを開催します。
- 5 託児サービスの実施 1回
1歳～未就学児を対象に、展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向け、託児サービスを実施します。

【達成目標】 福祉関連事業への参加者数のべ 400 人

【目標設定の理由】

- ・過去3年（平成21年度～平成23年度）の参加者数の平均362人を超える400人となりました

（福祉関連事業への参加者数）

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
講演会	20	20	27	35	22
ワークショップ	25	19	16	43	22
みんなのアトリエ		115	101	114	111
その他	67	73	250	347	0
計	112	227	394	539	153

【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
 - ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。
-

〔目標設定の理由〕

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しめること、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていきたいと考えています。
- ・設備や什器を新規に導入するよりも、対話鑑賞のような人的対応を充実させることのほうが、福祉の充実につながると考えています。
- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かしていきたいと考えています。

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

【事業計画】

- ・効率的な開館時間の設定
- ・新規歳入増の取組み

【達成目標】 観覧者1人あたりの決算額を前年度比5%減とする。

【目標設定の理由】

- ・今年度は、効率的な開館時間の設定等を行い、観覧者1人あたりの決算額を前年度比5%減とします。
- ・また、歳入増のため、今年度からHPバナー広告の募集、ワークショップの有料化に取り組みます。

	H19	H20	H21	H22	H23
歳出決算額	457,121 千円	452,368 千円	427,602 千円	399,076 千円	408,172 千円
観覧者数	165,961 人	106,520 人	98,738 人	100,033 人	108,985 人
1人あたりの 決算額	2,750 円	4,250 円	4,330 円	3,990 円	3,750 円

【実施目標】 職員すべてが費用対効果をつねに意識し、効率的な運営を行う。

【目標設定の理由】

- ・サービスの質を低下させずに経費削減を目指すため、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。